

「経済安全保障のためのシーレーンの安全確保とサプライチェーンの
強靱化シンポジウム 2024」 宿利会長 挨拶

皆さま、こんにちは。運輸総合研究所（JTTRI）会長 / ワシントン国際
問題研究所（JITTI USA）会長の宿利正史です。

本日は、ご多用の中、シンポジウムにご参加いただきました皆さま、ま
た、オンラインでご視聴の皆さまに、心から感謝申し上げます。

まず始めに、日米関係の要諦を担うご公務にご多忙を極める中、ご参加
を賜りました山田重夫 駐米日本国特命全権大使に厚く御礼申し上げます。

また、本日のシンポジウムは、私ども運輸総合研究所の米国拠点である
ワシントン国際問題研究所と、ジョンズホプキンス大学 SAIS<sup>(高等国際関係大学
院)</sup>ライシャワー東アジア研究センターとの共催により開催します。SAIS ラ
イシャワー東アジア研究センター長であるケント・カルダー教授、おかげ
さまでこのシンポジウムの開催に至りました。有り難うございます。

続いて、基調講演を賜ります、

- ・ アン・フィリップス 米国運輸省連邦海事局長
- ・ 寺田吉道 日本国国土交通省国土交通審議官

のお二人に心から感謝申し上げます。

加えて、パネルディスカッションに登壇いただきます、日米の海事分野
を代表する官民の5人のパネリストの皆様、ジェフリー・グレッシュ国防
大学教授、石井昌平 前海上保安庁長官、ウェイン・アーガイン 米国沿岸
警備隊長官補、林 光一郎 日本郵船株式会社 調査グループ長、ヘンリ
ー・ヌズム Waterman Logistics 社長、ここワシントン D.C.にお集まりいた
だき、誠にありがとうございます。

さて、近年、経済のグローバル化が進展し、各国の活動はシーレーンへの
依存度を高め、シーレーンは世界経済のサプライチェーンを維持する上で
死活的に重要となっています。

一方で、南シナ海などにおける一部の国家による拡張的な海洋権益主張や、ウクライナ情勢と黒海の戦闘地域化、中東・イスラエル情勢、紅海での非国家主体による商船襲撃など、シーレーンでの自由な航行が脅かされています。パナマ運河地域で渇水問題も生じるなど、様々なリスクが顕在化しており、各国は、安定したシーレーンの確保に向けて取組みを模索しています。

日本には、古くより「四面環海^{しめんかんかい}」という言葉があります。文字通り、日本は四方を海に囲まれ、エネルギー、鉱物、食料など主要物資の貿易のほぼ100%を国際海上輸送に頼っており、海運業はその基幹として重視されてきました。米国も安全保障の観点から海運業の強化に取り組みられてきました。

さらに、今日^{こんにち}では、シーレーンの捉え方に関しても、旧来的な、海運・海上保安分野における事柄（イシュー）であるという見方に止まらず、サプライチェーンを始めとする「国家の経済安全保障」という文脈上でシーレーンの重要性を捉える、という認識が広がっています。

日本では、2022年5月に、経済安全保障推進法が制定されました。初めて経済安全保障を正面に掲げた法律で、経済活動に関して行われ得る国家や国民の安全を害する行為を防止するため、必要な措置を一体的に講じることとしており、海運・海事分野もその中で位置づけられています。

加えて、シーレーンに関しては、今日^{こんにち}では、支障なく通行できるシーレーンは全ての国にとって、その活動上、無くてはならない存在であり、いわば万国共通の公共財（Global Commons^{グローバル コモンズ}）です。この点にも着目し、その安定に向け、関係国が果たすべき役割を検討することは待ったなしの課題です。

日米両国は、シーレーンの安全確保を国家の存続に不可欠な要素と認識し、豪州、欧州、韓国、インドなどの同志国と連携し、東南アジアや太平洋島嶼国の能力向上支援などを通じてシーレーンの安定を追求し、「自由で開かれたインド太平洋」の実現に向けて努力を続けています。

次に、海事セクターを念頭に、「サプライチェーン」に着目して考察することも欠かせません。パンデミックや異常気象に加え、地球上の地政学的リスクなどが、サプライチェーンの脆弱性をクローズアップしています。

米中対立や中東の緊張、ウクライナ情勢、台湾海峡を巡る情勢などの国際的な緊張事案が、主要航路や海域での航行に支障を生じさせ、国際貿易に影響を与えており、安定的な「モノの流れ」を確保するため、情勢に応じた輸送ルートのリダンダンシー（複線性）の確保、或いは、自国輸送力の十分な確保といった対策も求められています。

サプライチェーンの強靱化は、国家の安定に直結する、死活的に重要な問題であり、今日、日米の関係者は、地政学的リスクを始め、今ほど述べたような課題に取り組むことが大変重要です。これに日米が連携して臨むことはグローバル・サプライチェーンの安定に大きく寄与すると考えます。

最後にもう1つ、重要で 欠かせない点は、このような、経済安全保障という視点をもってシーレーンの安定確保や海運、サプライチェーンが如何に重要であるかということについて、日本では残念ながら国民レベルの認識がまだ低いと日頃感じることです。国民の意識を高めていくことも必要と実感しています。

本日のシンポジウムでは、日米の政府関係者、企業幹部の方々をお招きして、今ほど述べましたような、日米両国、産業界が直面する課題やリスクを明らかにし、両国間の連携の観点も含めてご議論いただき、皆さまと一緒にこの問題を考えたいと思います。

最後に、本日のシンポジウムが、日米両国の関係者にとって、両国の経済社会活動や国防上の活動などを幅広く支えている基幹的な存在である海運やシーレーンに関して直面している課題を解決することに貢献すること、そして日米関係の更なる発展につながることを祈念しまして、私の挨拶といたします。本日は真にありがとうございます。（以上）